

令和7年度重要サンゴ群集モニタリング調査報告書

奄美群島サンゴ礁保全対策協議会

1. 目的

奄美群島のサンゴ礁は、1998 年の大規模なサンゴの白化現象、2000 年から 2008 年のオニヒトデ大発生により大きな攪乱を受けた。その後、白化やオニヒトデにより壊滅したサンゴ礁にもサンゴ幼生が定着し、全体的にサンゴは回復傾向にあった。しかしながら、2024 年夏期に大規模なサンゴの白化現象が発生し、奄美群島における調査地点 121 点中 98 地点において、生サンゴ被度の減少が確認された。本調査では、奄美群島サンゴ礁保全対策事業モニタリング地点以外の調査地点を選定し、サンゴ群集の現況を把握し保全に資する事を目的とする。

2. 調査海域

徳之島の重要サンゴ群集海域 5 地点を調査した。本調査では陸域からのアクセスが可能で海水浴やシュノーケリングでの利用されている海域を調査地として選定した。



調査位置図

3. 調査結果

2024 年夏期に発生した大規模な白化現象の影響を中心にモニタリング調査を行った。畔礁池では、2024 年の白化でミドリイシ属群体及びコモンサンゴ属が死滅し被度は半減した。母間礁池においては、2024 年の白化によりミドリイシ属群体及びコモンサンゴ群体の多くが死滅した。与名間礁池では、比較的白化の影響は軽微であったが、与名間礁斜面では、白化により優占する卓状ミドリイシ属群体の殆どが死滅した。コバンシヤ礁池では、浜近くのシコロサンゴ群体は死滅がみられたが、沖側では比較的影響は軽微であった。

			調査地点	被度	特記事項
徳之島	徳之島町	1	畦 (礁池)	20%	20216 年 5 月に大規模な白化現象が発生し優占する樹枝状ミドリイシ属群体 (オトメミドリイシ) と樹枝状コモンサンゴ群体 (トゲコモンサンゴ) の殆どが白化し死滅した。その後回復がみられたが、2024 年夏期の大規模な白化により、ミドリイシ属、コモンサンゴ属、シコロサンゴ属の部分死滅があり、被度は半減し、20%となっている。 (調査日:2025 年 6 月 25 日)
		2	母間 (礁池)	5%	以前は、礁池東側の沖側では樹枝状ミドリイシ属の群体 (オトメミドリイシ) もみられたが、2024 年の大規模白化により殆どの樹枝状ミドリイシ属や樹枝状コモンサンゴ属のサンゴが死滅した。白化の影響が少なかった葉状のシコロサンゴ類群体が優占している。 (調査日:2025 年 6 月 25 日)
	天城町	3	与名間 (礁池)	50%	与名間ビーチ地先の礁池内のサンゴ群集を調査。局所的ではあるが礁原近くに樹枝状コモンサンゴ群落 (エダコモンサンゴ) が広がる。樹枝状ミドリイシ群体はほとんどみられない。2024 年の大規模白化による影響は少なく、生サンゴ被度は 2022 年の 60 % から 50%に減少した。 (調査日:2025 年 6 月 26 日)
		4	与名間 (礁斜面)	5%未 満	以前、礁斜面ではクシハダミドリイシやココビミドリイシ等の卓状ミドリイシ属群体が優占し、被度は 2023 年は 50%あったが、2024 年の大規模白化により、殆どのミドリイシ属群体が死滅し、被度は 5%未満となっている。以前から黒色カイメン (テルピオス) に被覆された群体がみられる。 (調査日:2025 年 6 月 26 日)
	伊仙町	5	コバンシヤ (礁池)	40%	陸側はシコロサンゴ群体が散見され周囲にエダコモンサンゴ群体がみられる。沖側ではエダコモンサンゴ群落が優占している。海面まで成長している群体も多くみられる。2024 年の大規模白化では、陸側のシコロサンゴ群体及びコモンサンゴ群体に死滅がみられたが、沖側の群体への影響は比較的少なかった。 (調査費:2025 年 6 月 25 日)

1. 畔 礁池 (被度 20%)



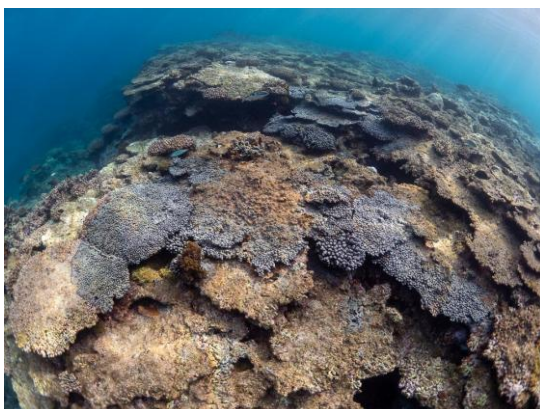
2. 母間 礁池 (被度 5%)



3. 与名間 礁池 (被度 50%)



4. 与名間 礁斜面 (被度 5%未滿)



5. コバンシヤ 礁池 (被度 40%)

